

- 1 派遣期日 平成 27 年 11 月 13 日（金）
- 2 研修先 学校名 東京学芸大学附属世田谷小学校
所在地 東京都世田谷区深沢 4-10-1
<http://www.setagaya-es.u-gakugei.ac.jp>
- 3 研修内容

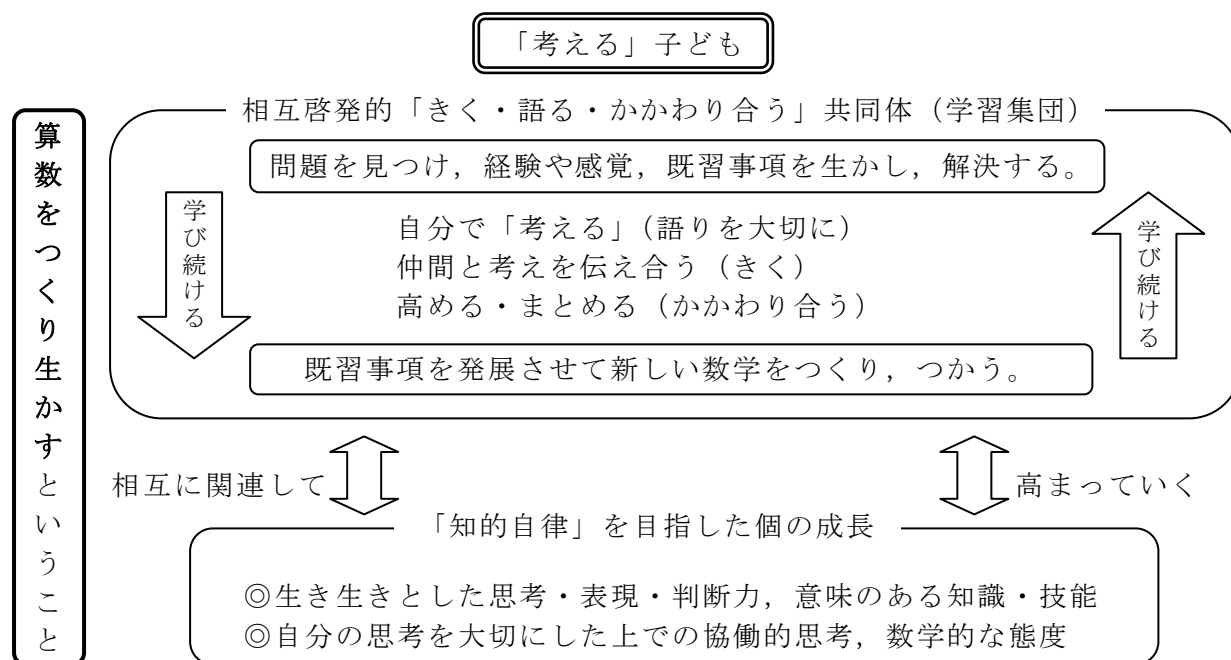
自分の学びに「自信」がもてる子どもを育む学校の創造
—学び続ける共同体を作る授業デザイン—

（１）研究について

東京学芸大学附属世田谷小学校では、「学び続ける原動力」とは何かという問いに、「相互啓発的学習観」に根ざした授業作りに加え、「切実感」「自己効力感」「安心感を支える学級風土」「問いの共有化」がキーワードであり、問題意識をもった際、「自己効力感」は児童の内面を表し、その他は授業や学級の在り方や教師の手だてに依存する面が大きいことであると考えている。そして、子どもの学ぶ姿を、その子の思考過程や人間関係などの背景から見取り、「自分が学んだことへの自信」はどのように育まれていくのか、そして教師側が育ててみたい「自信」とはどのような子どもの姿となって表れるのかを追求し実践を行っている。

（２）算数科提案～「自分の学びに『自信』がもてる子どもを育む学校の創造」へ向けて～

① 算数科で目指す子ども像 ～自分の学びに『自信』がもてる子どもとは



② 学び続ける共同体を作る授業デザイン ～「自信」を育むために～

- 考える場をつくる
 - ・ある問題が既習の方法によって解決され，別の方法でも同じ結論になる場
→ 解決過程などについての価値判断，洗練されたものに練り上げること
（多様な問題解決方法と比較検討）
 - ・ある問題が既習の方法で解決できない場
→ 問題解決（問い，悩み，葛藤，困り感などから）
 - ・これまでに出会ったことのない未知の場
→ 場を分析するところから

- ・考えたことを考える場（考え続けていく場）

→ 自分の考え（解決方法）をふり返って考える（学習感想）

- 仲間とともに「考える」
- 数学的な視点から個の考えを見とり、実感を伴った理解を支える

（３）公開授業参観について

- 第３学年 算数科
- 単元名 はしたの大きさを表す数
- 単元の目標
 - ・ 小数、分数の表し方やその関係について理解し、数としての大小関係や加減計算ができることを確かめることができる。
- 本時について
 - ・ 本時の目標 具体的な操作や計算を通して、 $1/4\text{m}$ 、 $1/8\text{m}$ 、 $1/3\text{m}$ がどれだけの長さなのかを調べ、 $1/3\text{m}$ の必要性を理解する。
- 展開

〈導入〉

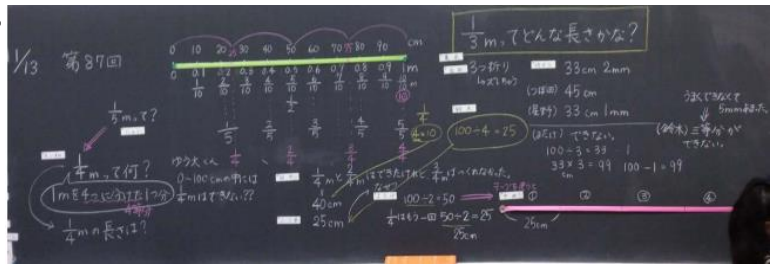
 - ・ $1/2\text{m}$ 、 $1/5\text{m}$ 、 $1/10\text{m}$ を cm や m でどのように表すのかを、前時までに学習した数の関係を調べた数直線を使って確認する。
 - ・ $1/4\text{m}$ はどんな長さになるか。→ 25cm 、 0.25m
 - ・ $1/3\text{m}$ についても考えてみよう。

〈課題把握〉

 - ・ $1/3\text{m}$ ってどんな長さかな？

〈自力解決〉

 - ・ $1/3\text{m}$ は 0.3m と 0.4m の間になるのではないかな。
 - ・ 紙テープを使って三等分してみよう。→ 33.3cm くらいになる。
 - ・ 計算をしてみてもどうか。→あまりが出てしまう。



（４）研究協議での意見

- ・ 児童の机にはテープ図が貼ってあり、児童は、分数の学習を進めるたびに新たな分数を書き込むことができるようになっている。さらに、二人分で 1m まで表すことができるため、十進法では表せない大きさも表せるという分数のよさを実感させるための工夫がされていた。
- ・ 本時の主課題は「 $1/3\text{m}$ はどのような長さであるのか調べてみよう」とする計画であったが、児童のつぶやきから課題を発展させて、「 $1/3\text{m}$ ってどんな長さかな？」とし、児童の疑問や発現をふくらませながら課題を設定した。授業では、紙テープを三つ折りすることにより三等分ができ「 $1/3\text{m}$ ができる」と考えた児童と、 $100 \div 3$ を計算して1余るので「 $1/3\text{m}$ ができない」と考えた児童が混在していた。ここで児童に考えさせることは、「表現の仕方」であったのではないかな。
- ・ 1m を三等分したうちの一つ分を $1/3\text{m}$ 書くことを確認し、他の表現方法で $1/3\text{m}$ が表現できるか（つまり、計算をして表現できるか）を問うことで、本時の主課題「 $1/3\text{m}$ はどのような長さであるのか調べてみよう」に迫ることができるのではないかな。

4 感想

今回の研修では、「自分の学びに自信をもてる子」に向かう授業デザインについて学ぶ機会を得ることができた。特に小学校では、子どもの「自己効力感」が学級での友人関係や教師による手立てに依存する面が大きく、学級経営を基盤とする授業作りの大切さを改めて実感した。